

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 1 月 21 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4 2 7 1 4 0 2 2 0 0		
法人名	有限会社 春陽会		
事業所名	グループホーム うららの里		
住所	長崎県南島原市有家町蒲河4 1 5 番地		
自己評価作成日	平成 24 年 11 月 26 日	評価結果市町受理日	平成 25 年 2 月 20 日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七番地 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 25 年 1 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型サービスの主体は利用者であり、利用者のニーズに基づいて柔軟性と応用力のあるサービスを提供する。利用者の気持ちに向き合い、寄り添いながら支援することを大切にし、本人の思いや希望を受け止め、それを叶える方法を考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は両親の介護をきっかけに、利用者の立場に立ったグループホームを作りたいとの思いから開始された。職員は管理者をはじめとして長年の介護経験者が多く、豊富な知識とチームワークによる利用者へ寄り添った支援が行われている。また、特に「おいしい食事」を提供することに力を入れ、代表自らが栽培した野菜や新鮮な魚が供され、食事は利用者の楽しみのひとつになっている。リビングでは洗濯物をたたみ、野菜の下ごしらえ等のお手伝いをする利用者へ、職員が必ず労いの言葉をかける配慮がされ、お互いを思いやる利用者・職員の穏やかな表情が印象的である。利用者とのふれあいや笑顔を仕事のやりがいと感じる職員の前向きな姿に、益々向上が期待できるホームである。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングでは、理念を振り下げて職員全員で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	事業所理念である「陽気に楽しくいきいきと！」は事業所立ち上げ当時より職員全体で話し合い認識され、共有が図られている。管理者は業務の中で迷った時は原点である理念に返るようにと常に意識付けがなされ、毎月のケア会議で振り返りができている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭やお祭りなどに利用者と共に積極的に参加している。また、地区の中学生がボランティアとして活動しに来てくれるなど、地域の交流がある。	事業所が立地上、二つの自治会に属しているため老人会や地域行事に幅広く参加できている。事業所行事にも多くの地域の協力と理解が得られている。また代表は老人会総会にも出席し、車椅子の貸出しを申し出たり、介護の相談を受けるなど地域での相談役も担っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は事業所での実践内容を踏まえて、地域の様々な研修、会合に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めている。	/	/
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を報告し合い、一つ一つ積み上げていくようにしている。また、これまでの評価結果を踏まえ、現在取り組んでいる内容について報告し、意見をもらえるようにしている。		
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くようにつとめている	地域密着型サービスでは、事業所も市町村も考え方や運営、サービスについて試行錯誤しながら、まず、考え方や実態を市町村担当者によく知ってもらい、考え方や実態を共有していく。	運営推進会議では行政に事業所の状況を伝え、わからないことがあればすぐに相談するようにしている。職員もグループホーム連絡協議会や複数事業所連携事業など外部研修にも積極的に参加し、情勢を把握し情報交換の場として連携を深めている。	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。</p>	<p>緊急やむを得ない場合以外は身体拘束は行わない認識を持ち、外部研修参加後、ケア会議で職員の話し合いを行い共有認識を図っている。また「自分の家に帰りたい」等の行動に対する背景や原因を考えて対応し、言葉かけや見守りの仕方など日頃から話し合いを行っている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会やミーティングなどを実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>機会あるごとに職員への説明を行っている。対応が必要と思われる利用者がある場合は、随時、職員に説明、アドバイスをしながら、利用者の支援に結び付けている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金や起こり得るリスク、重度化した場合や看取りの対応、医療連携体制の実施などについて詳しく説明し、同意を得ている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族には手紙や訪問時に常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見、要望などはミーティングで話し合い、反映させている。</p>	<p>家族の面会時には笑顔でお迎えし、日頃の状況を伝えると共に会話の中で「今日はどうでしたか？」と家族にも問いかけ、ご意見や希望を大事にし家族の希望に添えるよう働きかけている。例えば家族からの卵、ご飯の希望も受け入れ家族の安心や信頼に繋がった。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング、朝礼時に意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。</p>	<p>職員からの物品購入要望には常に利用者のためという意識を持ち、意見を受け入れている。また主任を設け意見の吸い上げを行うとともに、定期的な食事会を利用して意思疎通を図り職員意見の反映に配慮している。</p>	

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握するように努めている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が参加できるようにしている。また、それらの研修内容は、全職員が閲覧できるようにしている。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>他のグループホームへの見学や、各種研修会を通して、事業所外の人々の意見や経験をケアに活かしている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の日頃の状態をこまめに聞き取り、なんでも話していただけるように心掛けている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>職員は家族の思いに寄り添いながら、情報の共有に努め、本人を支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えていく。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時、本人や家族の思い、状況などを確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で、信頼関係を築きながら、可能なかぎり柔軟な対応を行っている。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように声かけをしている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は家族の思いに寄り添いながら、日々のくらしのできごとや気づきの情報の共有に努め、本人を支えるために家族とともに支援している。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>昔から利用している美容室に行き続けている利用者や、毎月の命日に仏様参りを続けている利用者があり、一人ひとりの生活習慣を尊重している。</p>	<p>友人の面会も多く、利用者の教え子が恩師を慕い散髪に来たり、利用者から「家の近くに行ってみたい」との要望があればドライブに誘い思い出話を楽しむこともある。本人や家族の希望で葬式やお通夜の参列に送迎することもある。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。また心身の状態や気分、感情で日々時々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約が終了された方にも、夏祭りなどの行事に招待したり、遊びに来てもらうなど継続的な付き合いができるように心掛けている。また、家族からの相談にのっている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々のかかわりの中で声をかけ、言葉や表情などからその真意を押し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通の困難な方には、家族や関係者から情報を得るようにしている。</p>	<p>介護記録には一人ひとりの起床時間や行動内容が詳細に記載されており、統一ノートには希望や申し送り事項を記載し利用者の思いや希望、各々の時間を大事にしている。食事や起床時間も個々に合わせた支援がなされている。</p>	

24	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用時、自宅に訪問したり、本人や家族、関係者などから聞き取りようになっている。利用後も折に触れ、本人、家族にどんな生活をしていたのかを聞いている。</p>		
25	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>生活の中で、できないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めている。</p>		
26	10 <p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族には、日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全体で意見交換やモニタリングなどを行っている。</p>	<p>ユニット毎にそれぞれ計画作成担当者が作成し、ケア会議で意見を出し合いながら職員全体でプランの作成がなされている。「お風呂はゆっくり最後に入りたい」など本人の言葉を目標に取り入れ、気になった言葉や表情を記録に残し、次のプランへと繋げている。</p>	
27	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別に、食事量・排泄などの身体的状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉を記録している。いつでもすべての職員が確認できるようにしており、勤務開始前の確認を義務付けている。</p>		
28	<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるように努力している。</p>		
29	<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>本人と地域とのさまざまな接点を見出し、ボランティアの協力を呼びかけている。</p>		

30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医療機関の他、かかりつけ医での医療を受けられるよう家族と協力し、通院介助を行ったり、訪問診療にきてもらうケースもあり、複数の医療機関と協力関係を結んでいる。</p>	<p>以前からのかかりつけ医を主に考え、協力医療機関も紹介しながら家族の希望に添うようにしている。定期的な往診のほか、かかりつけ医師が近くに来たからと気軽に立ち寄って頂くこともあり、安心と信頼のおける健康管理ができている。</p>	
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>准看護師が2名おり、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、介護職員の記録をもとに、確実な連携を行っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院によるダメージを極力防ぐために、医師と話をする機会をもち、事業所内での対応可能な段階で、なるべく早く退院できるようにアプローチしている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した時、終末期の対応指針を定め、家族、医師、職員を交えて話し合いを行っている。また、状態の変化があるごとに家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。</p>	<p>これまでに十数件のターミナルを経験しており、ケア会議でその方その方の最期の迎え方を話し合い意識の統一がなされている。管理者も急変時にはすぐに駆け付ける体制ができており、その時の対応についても詳細に話し合いがなされ安らかな最期になるよう支援がされている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>行政関係者や消防署の協力を得て、救急手当てや心肺蘇生術の研修を実施し、すべての職員が対応できるようにしている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。</p>	<p>年に1、2回消防署の立会のもと防災訓練を行っているほか、毎月事業所独自に定期的な訓練も実施している。食材や個人情報など備蓄品の準備も整っている。消防署から自然災害に関する助言や通報の際の指導も受け、防災意識の高さを感じる事が出来た。</p>	<p>緊急時の体制として、昼夜想定での避難誘導や誘導後の見守りなど役割分担を明確にすることで、混乱や不安を取り除き落ちついた対処ができるよう更に充実した備えになることを期待する。</p>

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方をリーダーが点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	職員は利用者の居室には必ずノックして入室し、個人の空間を大事にしている様子が窺えた。利用者の性格や生い立ち、生活歴を理解し、言葉かけの仕方で傷つくこともあるかもしれないという意識を持って対応している。また、ダメと一方的に言うのではなく、必ず理由を説明するようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択肢を提案して、一人ひとりの利用者が自分で決める場面をつくっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはもっているが、時間を区切った過ごし方はしていない。体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせた支援をしている。行事などの時に、おしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。希望に合わせたヘアカットや毛染めを職員が行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルを囲んで、楽しい食事ができるよう雰囲気づくりを大切にしている。	馴染みの魚屋さん（行商さん）から新鮮な魚が届き、夕食には毎日刺身が添えられる。時には利用者と共に魚を選び献立が決まることもある。栄養士の配置で栄養のバランスを考えた食事がならび、うなぎや肉類など利用者の希望も多く取り入れられている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		

42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口の中を触れられる利用者の気持ちに配慮しつつ、一人ひとりの力に応じた歯みがきの手伝いをしている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることで、トイレの排泄を促している。</p>	<p>排泄チェック表をもとに「トイレどうですか?」と声かけし誘導を行っている。オムツよりトイレでの排泄との意識を持ち取り組んでいる。献立に消化のいいものや野菜を多く取り入れ、自然排便に繋がるよう配慮している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>一人ひとりの1日の暮らし全体の中で、食事、排泄、活動状態などを把握し、自然排便を促す工夫を個別にしている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の日曜や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴したい日、希望する時間に入浴していただいている。また、服を脱ぐことを嫌がる利用者には、複数の職員で入浴の支援をし、安心感をもってもらう工夫をしている。</p>	<p>基本的に毎日の入浴が実施され、本人の希望で入浴しない日は必ず清拭更衣がなされている。入浴の時間帯やゆっくり入りたいなどの希望に添うようにし、時間がかかっても本人ペースでの入浴になるように支援している。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望などを考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が見られるときは、いつもより詳細な記録をとるようにし、職員や協力医療機関との連携を図れるようにしている。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできるような仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせた外出支援をしている。短時間でも戸外に出るようにしている。</p>	<p>季節ごとのドライブのほか、日常的に広い中庭へ自由に散歩に出る事ができ、本人が行きたい時に出れるよう見守りし対応している。家族の協力のもと病院受診や外食のほか近くの温泉施設に宿泊し家族との時間を楽しむこともある。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の協力を得て、少額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かり、事業所で管理している人でも、外出時手渡すなどの工夫をしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>毎年、年賀状や暑中お見舞いの手紙を出す支援を行っている。利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>茶碗を洗う音、ご飯の炊ける匂い、心地よい音楽、ゆず湯、菖蒲湯、桜餅など五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。</p>	<p>道路に面した大きな窓からは暖かな日差しが差し込み、地域の方が散歩する姿や車の往来や季節の移ろいを感じる事ができる。利用者が自然と集まる食堂やリビングでは利用者がそれぞれの役割を持ちながらゆったりと親子のような会話を楽しむ風景を感じることができた。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングに椅子やソファを設置し、絵画やお花などで装飾して、心地よい空間を作っている。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子以外にも、それぞれの利用者の好みのも、馴染みのものなどを生活スタイルに合わせて用意し、写真や使い慣れた日用品が持ち込まれ、利用者の居心地の良さに配慮している。	それぞれの居室には書道や手芸などの趣味の道具が使いやすい状態で準備されている。また仏壇やテレビのほか使い込まれたタンスや思い出の品など自宅を思わせる配置がなされており、思い思いにゆったりとした時間を過ごす姿を感じる事ができた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって何がわかりにくい、どうしたら本人の力でやっていただけるか、を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。		

アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)			1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)			1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)			1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)</p>		<p>1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない</p>
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)</p>		<p>1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)</p>		<p>1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。</p>		<p>1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。</p>		<p>1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	ミーティングでは、理念を掘り下げて職員全員で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。		
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	地域の文化祭やお祭りなどに利用者と共に積極的に参加している。また、地区の中学生がボランティアとして活動しに来てくれるなど、地域の交流がある。		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	管理者は事業所での実践内容を踏まえて、地域の様々な研修、会合に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めている。		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を報告し合い、一つ一つ積み上げていくようにしている。また、これまでの評価結果を踏まえ、現在取り組んでいる内容について報告し、意見をもらえるようにしている。		
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	地域密着型サービスでは、事業所も市町村も考え方や運営、サービスについて試行錯誤しながら、まず、考え方や実態を市町村担当者によく知ってもらい、考え方や実態を共有していく。		

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会やミーティングなどを実施し、高齢者虐待防止法に関する理解理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>機会あるごとに職員への説明を行っている。対応が必要と思われる利用者がある場合は、随時、職員に説明、アドバイスをしながら、利用者の支援に結び付けている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金や起こり得るリスク、重度化した場合や看取りの対応、医療連携体制の実施などについて詳しく説明し、同意を得ている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族には手紙や訪問時に常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見、要望などはミーティングで話し合い、反映させている。</p>		
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング、朝礼時に意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。</p>		

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握するように努めている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が参加できるようにしている。また、それらの研修内容は、全職員が閲覧できるようにしている。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>他のグループホームへの見学や、各種研修会を通して、事業所外の人の意見や経験をケアに活かしている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の日頃の状態をこまめに聞き取り、なんでも話していただけるように心掛けている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>職員は家族の思いに寄り添いながら、情報の共有に努め、本人を支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時、本人や家族の思い、状況などを確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で、信頼関係を築きながら、可能な限り柔軟な対応を行っている。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように声かけをしている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は家族の思いに寄り添いながら、日々のくらしのできごとや気づきの情報の共有に努め、本人を支えるために家族とともに支援している。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>昔から利用している美容室に行き続けている利用者や、毎月の命日に仏様参りを続けている利用者があり、一人ひとりの生活習慣を尊重している。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。また心身の状態や気分、感情で日々時々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約が終了された方にも、夏祭りなどの行事に招待したり、遊びに来てもらうなど継続的な付き合いができるように心掛けている。また、家族からの相談にのっている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々のかかわりの中で声をかけ、言葉や表情などからその真意を押し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通の困難な方には、家族や関係者から情報を得るようにしている。</p>		

24	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用時、自宅に訪問したり、本人や家族、関係者などから聞き取りようになっている。利用後も折に触れ、本人、家族にどんな生活をしていたのかを聞いている。</p>		
25	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>生活の中で、できないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めている。</p>		
26	10 <p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族には、日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全体で意見交換やモニタリングなどを行っている。</p>		
27	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別に、食事量・排泄などの身体的状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉を記録している。いつでもすべての職員がかくにんできるようにしており、勤務開始前の確認を義務付けている。</p>		
28	<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるように努力している。</p>		

29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>本人と地域とのさまざまな接点を見出し、ボランティアの協力を呼びかけている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医療機関の他、かかりつけ医での医療を受けられるよう家族と協力し、通院介助を行ったり、訪問診療にきてもらうケースもあり、複数の医療機関と協力関係を結んでいる。</p>		
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>准看護師が2名おり、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、介護職員の記録をもとに、確実な連携を行っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院によるダメージを極力防ぐために、医師と話をする機会をもち、事業所内での対応可能な段階で、なるべく早く退院できるようにアプローチしている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した時、終末期の対応指針を定め、家族、医師、職員を交えて話し合いを行っている。また、状態の変化があるごとに家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>行政関係者や消防署の協力を得て、救急手当や心肺蘇生術の研修を実施し、すべての職員が対応できるようにしている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器使い方などの訓練を定期的に行っている。</p>		

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方をリーダーが点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択肢を提案して、一人ひとりの利用者が自分で決める場面をつくっている。
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはもっているが、時間を区切った過ごし方はしていない。体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている。
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせた支援をしている。行事などの時に、おしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。希望に合わせた嘸みヘアカットや毛染めを職員が行っている。
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルを囲んで、楽しい食事ができるよう雰囲気づくりを大切にしている。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中を触れられる利用者の気持ちに配慮しつつ、一人ひとりの力に応じた歯みがきの手伝いをしている。

43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることで、トイレの排泄を促している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>一人ひとりの1日の暮らし全体の中で、食事、排泄、活動状態などを把握し、自然排便を促す工夫を個別にしている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴したい日、希望する時間も入浴していただいている。また、服を脱ぐことを嫌がる利用者には、複数の職員で入浴の支援をし、安心感をもってもらう工夫をしている。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望などを考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が見られるときは、いともより詳細な記録をとるようにし、職員や協力医療機関との連携を図れるようにしている。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできるような仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせた外出支援をしている。短時間でも戸外に出るようにしている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の協力を得て、少額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かり、事業所で管理している人でも、外出時手渡すなどの工夫をしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>毎年、年賀状や暑中お見舞いの手紙を出す支援を行っている。利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>茶碗を洗う音、ご飯の炊ける匂い、心地よい音楽、ゆず湯、菖蒲湯、桜餅など五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングに椅子やソファを設置し、絵画やお花などで装飾して、心地よい空間を作っている。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子以外にも、それぞれの利用者の好みのもので、馴染みのものなどを生活スタイルに合わせて用意し、写真や使い慣れた日用品が持ち込まれ、利用者の居心地の良さに配慮している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって何がわかりにくいのか、どうしたら本人の力でやっていただけるか、を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。		
アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
62		利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない	

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない